

# 神戸女学院大学

## 心理学部 心理学科

### 精神保健福祉士養成課程 ニュースレター

第1号

実習医療機関より、就職ガイダンスを開催いただきました。



4回生のソーシャルワーク実習でお世話になっているハートランドしぎさん(奈良県)の職員の方より、精神保健福祉士の実務や具体的な就職に関するお話を伺いました。当日は精神保健福祉士養成課程の4回生9名、3回生1名が参加しました。

精神保健福祉士が所属している部署をメインにご紹介いただきました。発達障害や認知症などの専門外来や精神科スーパー救急病棟などがあり幅広い年齢層や症状の方を対象にしておられることや対象者ごとの支援の様子をお伺いし、病院で働く精神保健福祉士が多様な関わりをしていることや病院内での役割について理解することができました。また、多職種連携についてのお話では、精神保健福祉士の価値や視点に基づいた具体的なアプローチについてお聞きし、授業で学んだ理論が実践でどのように生かされているのを知る貴重な機会となりました。



#### 参加した4回生の感想



多職種連携の難しさについて実体験を踏まえて話していただきました。お話の中で看護師さんとワーカーは「失敗」の捉え方が違うからこそぶつかることが多いと教えて下さいました。看護師さんやお医者さんは患者さんの身体が一番に考えられているからこそ「失敗は許されない」という考え方をされますが、ワーカーは本人の意見を尊重することが重要だとされているからこそ「失敗しても次がある！」という考え方をされます。「失敗」の捉え方が違うからこそぶつかることは多いですが、多職種連携をしていく中で患者さんの情報を誰よりも知ること、そしてその情報をもとに提案をしていくことが大切なのだと学ぶことができました。

精神科救急急性期病棟についてのお話が非常に印象に残りました。毎日のように患者さんが入退院をされており、他の病棟に比べてせわしなく、大変だとお聞きし、スーパー救急の雰囲気を感じ取ることができました。精神科救急急性期病棟では「長期入院を私たちが阻止します！」とスローガンが掲げられていました。また、月毎に退院率を60%クリアするという目標が明確に立てられており、患者さんが一日でも早く地域で暮らせるよう取り組まれていることが分かりました。

なかなか児童の精神科というものがない中、ハートランドしぎさんでは、児童の心の病気について治療やセラピーを行っていると聞いてとても興味深かったです。また、子どものケアはもちろん親御さんへのケアも欠かせないという話を聞いてどちらにもアプローチをすることは支援をしていくうえで重要なことだと考えられました。

精神保健福祉士の勉強をする前は、ソーシャルワーカーは相談に対してアドバイスして解決しなければならぬと思っていました。しかし、今回の話や実習を通して、利用者の方はアドバイスを求めているというより話を聞いてほしいという方が多いということを知りました。また、傾聴することで支援を行う上での重要な問題が見えてきたり、会話の中に本人の言葉の裏を知ることにもつながり傾聴は大切であると感じました。

年代も職場も異なる複数名の精神保健福祉士の方々のお話を伺うことできたのはとても貴重な経験になりました。また、採用をご担当されている方のお話も伺うことができ、お仕事の内容だけでなく福利厚生や採用についても伺うことができ良かったです。ありがとうございました。

遠方にも関わらず、朝早くからご来校いただきました。高幣様、澤井様、古山様、田中様に心より感謝申し上げます。